



合格体験記



氏名：U.M.

【合格した自治体(校種・教科)】

大阪府(高校・生物) ・愛知県(中学校・理科) ・神奈川県(中学校・理科)

Q 採用試験に向けて・・・

①いつから勉強しましたか

勉強し始めたのは、3回生の10月頃。授業終わりに図書館の6Fで勉強していました。
なお、本格的に勉強を始めたのは3回生の春休みからです。

②どのような教材を使っていましたか

私は東京アカデミーを使用していましたが、「一ツ橋書店の教職教養(一般教養)フラッシュ」を使用していました。採用試験直前には、全国過去問を使用していました。

③勉強方法

薄い問題集を繰り返し解く、ということを中心に頭において取り組んでいました。1つの分厚い参考書、問題集をするより、様々な問題形式に触れることができます。同じ答えが問われている問題であっても、問題集ごとに問題文が異なるので、1つの答えに対し該当する問題文をノートにまとめて、自分自身の参考書を作りあげていきました。それにより共通事項を見つけ出し、覚えることを最小限に抑えて試験に臨みました。

④一日何時間勉強しましたか

長い日には10時間以上、まったくしない日も普通にありました。後にも書いているのですが、なにより私はバイトとうまく両立しなければいけなかったため、バイトのある日は朝から図書館で勉強し、夕方16時くらいにはバイトへ向かい、深夜まで働いて、また翌日朝から図書館。というサイクルが基本でした。バイトのない日は、夜まで図書館で勉強していました。
4回生になってからは、バイトに加え卒業研究が本格的に始まったため、うまく時間を作って勉強していました。私の場合、家では絶対に勉強しないので、大学では勉強！と心に決めて行っていました。

⑤どこの自治体を受けてどのような対策をしましたか

大阪、神奈川、愛知と3つの自治体に受験するとは考えていましたが、とくに対策というものはしていませんでした。基本は大阪に照準をあてていましたが、大阪では問われない分野も問題集を進めていく中で、別段範囲を飛ばして行うということはしませんでした。何があるかわからないので、とりあえずやっていて損はないかなと。面接練習などは、大阪の受験スタイルでした。

⑥二次対策はどうしていましたか(実技・専門・模擬授業)

受験前には正直手が回らなかった範囲でした。1次試験合格の判定がでたあとに過去問を購入し、勉強していました。専門の生物に関しては、春休みの時から、勉強に疲れたら「生物図説」を見ながら休むということを繰り返していました。ただ、神奈川県の模擬授業の際、校種が本命の高校と異なっていたので、周りのナビの人達に協力していただきながら、模造紙及び授業展開を作り上げていきました。大阪の模擬授業は、その場で題がわかるので、対応できるように「生物図説」をよく見ていました。

⑦あなたにとって教職ナビとはどのようなものですか

はじめ教職ナビは普段の学生生活とは異なっている感じを受けました。そのこともあり3回生から入った私が本格的にナビに参加したのは10月くらいでした。時間が経つにつれ、教職ナビの良いところもわかり、今では良い思い出がたくさんあります。もちろん、そのようなことだけでなく、ありきたりですが同じ目標を目指す仲間でありライバルとしてお互い切磋琢磨し合えます。また先生方からは、自分

の長所、短所を指摘していただくこともできるため、自分自身成長したいと思えば成長できる、そんな環境だと思います。私が今このように合格体験記を書かせていただけているのも、教職ナビという環境があったからだと思います。先生方や、ナビのみんなには本当に感謝しています。

⑧ゼミ(授業)と教員採用試験との兼ね合いはどうしていましたか

私の学科では、研究室に正式所属するのは3月からということだったので、学科及び教職に必要な授業の単位は3回生の後期までに取得しました。当初、授業さえなければ教員採用試験に集中できると安易に考えていたのですが、現実には甘くなく、研究では次から次へと仕事を与えられ、面接練習等の時間を作るのに右往左往する毎日でした。教育実習が終わった5月の末からは、さらに研究を本格的に始動させられ、なんども私は教員採用試験を受けるのに適しているのだろうか、と考えました。ですが、その度に理科ナビをはじめとして、一緒に頑張っているナビのみんなのサポート(面接ノートを見せてくれるや参考書を貸してくれる等)があったおかげで色々な面で教員採用試験を乗り切れたと思います。

⑨バイトやボランティアはどうしていましたか

私は、基本週5日のペースでバイトをしていました。1~3回生の間はバイトを掛け持ちしていましたが、教員採用試験がある4回生にはバイトを1つだけに絞りました。スクールボランティアはバイトがあったので、長期に渡ってというのはできませんでした。そのため、夏休みに短期集中というかたちでスクールボランティアへ参加しました。

⑩挫けそうになったときどうしていましたか

正直なところ挫けそうになったことはたくさんあります。教職ナビを含め、友人達と気の済むまで語ったり、自分の好きなこと(趣味)などをして、悩みを紛らわしたりもしました。ですが、なにより自分自身を奮い立たせることを心掛けていました。「やらなければいけないこと」「乗り越えなければいけないこと」と自分に言い聞かせて、何度も何度も立ち上がることで、今このように合格体験記を書くことができているのだと思っています。まずは、自分自身を信じて耐える、我慢するが秘訣でした。

⑪大学生活中にやっておいたらいいこと

私は、とにかくアルバイトをきっちりやってほしいと思います。できれば塾講師などではなく、違った業種のものをしてながら、経済的自立を少しずつ図ってください。教員採用試験だからスクールボランティアという考え方をあまりしてほしくありません。大学生の間であってもしっかりと働いて、社会経験や、お金の大切さを十分に感じてください。そうすると、「働く」という責任感を少しずつ理解していくことができるはずですが、アルバイトが大変、ボランティアが大変、大学が大変といっても、一つ一つを疎かにしないよう気をつけて大学生活をおくれば、必ずプラスになって返ってきます。

Q これからどのような先生になりたいですか

まずは、自分に与えられた仕事や課題一つ一つを確実にこなせる先生になりたいです。そして、少しずつ仕事に余裕を作れるようになった時に、生徒や社会に少しでもプラスになることをして、「先生と出会えてよかった」と心から言ってもらえる先生になりたいと思っています。

Q これから教員採用試験を受ける方へのメッセージ

教員採用試験だけでなく、受験というのは自分自身を写す鏡です。受験という難題に直面することで、自分とはどのような人間か、周りどどのように違うのか浮き彫りになります。これから採用試験を受ける方は、自分自身ではどうしようもない環境や現実とぶつかって、悩んでしまうことがあると思います。私自身そうでした。仲間や友人、家族や先生も、勇気ややる気を与えてくれます。ですが、本当の意味でそのような困難を助けることができるのは他でもない自分自身です。厳しいですが、それが現実です。だからこそ、自分を信じてください。自分ならできる、乗り越えられる。挫折してもすぐに立ち上がる、という「強さ」が必要です。学生でない人達の中には死に物狂いで臨む人が多数います。だからこそ、死に物狂いになってください。教員採用試験は1年だけでなく、今まで積み重ねてきたことすべてが問われます。たとえこの1年が多忙であっても、あきらめないでください。あきらめない心が、成功への扉を開くと思います。頑張ってください。

